

令和8年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※提出された申請書の内容は、個人情報を除いて公開する場合がありますので、ご了承ください。

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	一般部門
------	------

※プルダウンから選んでください

【1】事前相談

(1) 市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談 ※スタート部門は必須、一般・団体連携部門は任意です

コーディネーター名	水本協子
事前相談日	令和8年4月8日

※複数回相談した場合、全てご記入ください

(2) 協働を希望する課への事前相談 ※スタート部門は任意、一般・団体連携部門は必須です

協働希望課名	文化財保護課
事前相談日	令和8年4月8日／4月23日

※複数回相談した場合、全てご記入ください

【2】応募要件

該当する部門の応募要件の太枠内に、○を記載してください。(プルダウンになっています)

団体要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	5名以上で構成し、主に金沢市内で活動し、今後も活動を予定している団体である。	○
スタート部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去に採択された団体ではない。	
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から3年以内の団体である。	
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1年以上の活動実績を持っている。	○
一般部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去3回以上採択された団体ではない。	○
団体連携部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去2回以上採択された団体ではない。	
団体連携部門	異なる複数の団体による連携提案である。(申請者・団体概要をそれぞれ記入要)	
事業要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としていない。	○
全部門共通	申請事業について、国、地方公共団体又はこれらに準ずる団体から助成を受けていない。	○
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	○
全部門共通	翌年3月31日までに事業を完了できる。	○
一般部門、団体連携部門	一度採択された事業ではない。(新しい工夫・発展性が見受けられる場合は対象とする。)	○

【3】申請者・団体概要

団体の名称	金沢城・兼六園研究会
団体名称のフリガナ	カナザワジョウ・ケンロクエンケンキュウカイ
構成員	計 131 名
(内訳)	(1) 市内関係者 103 名 (2) その他 28 名
設立年月日(西暦)	1991 年 6 月 1 日(設立 36 年目)
団体概要	※記入しきれない場合、別に資料(団体パンフレット、HP等)を併せて提出してください。
(1) 設立の目的	平成2年(1990年)に石川県兼六園管理事務所主催の「兼六園教養セミナー」が開催される。当時の管理事務所下郷稔所長より継続的な学習の場としてOB会のようなものを作ってはとの提案があり、平成3年6月1日に「兼六園研究会」が発足した。その後、石川県が金沢城と兼六園を一体的に管理することになり、平成15年に会名を現在の「金沢城・兼六園研究会」とした。
※設立のきっかけや現在に至る経緯等	当会は「金沢城・兼六園を愛し、その魅力を学び・伝えること」を目的にした民間団体で、金沢城・兼六園等文化財に関する事項の学習と普及により、地域・生活文化の振興に貢献する活動をしている。活動にあたっては、城と庭の探求講座「金沢城大学」を受講した会員が行っている。
(2) 今後の目指して いきたいこと	【当会のビジョン】 金沢城・兼六園等文化財に関する事項の学習と普及の事業を行うことによって、地域・生活文化の振興に寄与する。 【当会のミッション】 これまで会員が協力し合い、親睦を図りながら、研究・研修・解説や、お城研究サークル・兼六園をもっと知る会・同期の会などのグループ活動を計画的に立案・実行し、「学び・伝える」活動を着実に実施してきた。その成果は研究発表文集「きくざくら」や「兼六園こどもガイドブック」などに結実している。このような基本的な活動は、今後も継続していく。 【今後行っていきたい事等】 ・「伝える」活動のための高砂大学校大学院講座や金沢城大学への講師・ガイド派遣に加え、当会の活動を広く知ってもらうため対外的に公開講座を実施した。 ・これからは、「伝える」活動を拡充するため、昨年開始した「兼六園こどもガイドブック」(本と電子版)を活用した小学校への出前講座を充実していく。さらに今年度は、未来を担う子ども達に金沢城や兼六園の魅力をよりよく知ってもらうため「金沢城こどもガイドブック」の発行や「兼六園こどもカルタ」の作成、そして「兼六園こどもガイドブック」と併せた活用・普及を積極的に行う予定である。
活動概要	
(1) 主な活動履歴	① 学びの活動 金沢美術工芸大学名誉教授太田昌子氏など外部講師を招いての講演会4回、「穴太衆の里」坂本への研修旅行を実施。会員が講師を務めるきくざくら学習会を4回、研究発表会を1回実施。加えて、会員によるテーマを決めた各種グループ活動を行った。 ② 伝える活動 「百万石まちなかめぐり さくら・もみじ」、高砂大学校大学院歴史民俗科講義「加賀藩歴史物語」「兼六園の見どころ」講座、兼六園ガイド、城と庭の探求講座「金沢城大学」に講師やガイドを派遣した。金沢市内の二つの小学校で金沢城・兼六園についての「出前講座」を実施した。 ③ 広報活動 会報「城と庭の研究会便り」を年6回発行。研究発表文集「きくざくら」令和7年5月に第34号を発行し、県内図書館等に寄贈した。(①、②、③はいずれも令和7年度の実績)
(2) 得意分野・ 活躍できること	・本年度は金沢市内の小中学校、高校で金沢城・兼六園についての「出前講座」実施回数を昨年度以上に増やす取り組みを行ないたい。
※専門的知見、連携先、 アピールポイント等	・大名庭園サミット：平成18年「大名庭園民間交流協議会」が水戸偕楽園、小石川後楽園、岡山後楽園、高松栗林公園、金沢兼六園の大名庭園の歴史的研究・観光振興に取り組む民間団体が参加して結成された。現在10団体が加盟し、各地区持ち回りによる交流を行っている。令和11年は金沢大会の予定。
HP,SNSのURL	H P https://shironiwa.org/

【４】企画内容

提案事業のテーマ	金沢市未来共創計画の5つの基本方針の中から、該当するテーマを選んでください。 【参考】未来共創計画の一覧はこちら↓ 未来共創計画 基本方針一覧
テーマ（プルダウン）	小テーマ（左セルでテーマを選ぶと、選択肢をプルダウンから選ぶことができます）
基本方針3_人づくり	(2) すべての子どもの可能性を引き出し生きる力を育む教育の実践
※テーマが複数に渡る場合、副次的なテーマを以下から選択してください。	
基本方針3_人づくり	(4) 学びの文化の形成と情操教育の推進
協働を希望する課名 ※スタート部門は任意	文化財保護課
企画のタイトル	「金沢城こどもガイドブック」を手にお城探検！
事業の概要	※①～③の流れに沿って、具体的に記載してください。
①現状の地域課題 (金沢市における困りごと、改善したい点、従来認識されていなかった課題 等)	地域では人口減少が進み活力の低下が懸念され、様々な分野での担い手の不足が顕在化してきており、今までに増して多様な人々の視点や活力が求められている。 金沢市では、若い世代が金沢に愛着を持っていると感じる市民の割合が44％程度と低く、また地域の歴史や文化に興味がある市民の割合も50％に満たない。すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る将来像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」を目指すには寂しい現状である。 金沢の個性は文化にあるといわれ、藩政時代から連綿と続く伝統文化を将来にわたって継承していくことが大きな課題である。私たちの身近にあるお城や庭園を、感受性豊かな子ども達が学校や家庭で親しく、楽しく学ぶための教材に乏しいのではないかと思う。そして、効果的な教材を使って文化財などを学ぶ機会も十分とは言えない。 特に、金沢城に関しては、大人向けの歴史や建造物を対象とした学術的な図書や観光客向けの冊子はたくさんあるが、小学校高学年で理解できるこども向けのものは見られない。今年から二の丸御殿を復元し、当時の姿を再現する取り組みが具体的に開始された。金沢城を中心とした地域の歴史と文化や伝統を楽しく知ることができ、お城の現地を様々な角度から楽しく探検できる教材が望まれている。 一方、住民の高齢化が進んでいるが、地域の歴史や文化を学び体験を重ねているシニア世代の知識や知見を、こども達に最大限伝える場を作ることが肝要である。シニアが元気に笑顔で活動している姿は、こども世代にも良い影響をもたらすと考える。

②ねらい・コンセプト	(1) アプローチする方向性、市民への共感性向上 ・小学校高学年対象の「金沢城こどもガイドブック」を作成（本と電子版）し、出前講座を行う。ガイドブックをみたら、“金沢城に出かけたい、より知りたい！”のようなビジュアルで学びやすいものをねらう。併せて、教育現場で活用しやすい「電子版」をつくる。さらに、これらの活用により当会の会員による学校の教育現場での出前講座を実施する。 ・掲載内容は、「金沢城はどんなお城？、金沢城公園の見どころ、石垣の博物館、金沢城公園の自然、金沢城の歴史、金沢城がよみがえる！、支える人たち」を検討する。
(①で記載した課題解決のために、 ・アプローチする方向性 ・工夫する点 ・協働する意義 ・市民が共感できる点 等)	・文化財保護課と連携し、金沢城の歴史や金沢城公園の整備・活用などを正しく、かつ楽しく理解できるものとする。また、金沢市教育委員会や学校教育現場のニーズを把握しながら、こども達の育成に役立つ編集を行い、活用しやすいものとする。でき上がったガイドブックは学校への配布とともに、こども達に貸し出されているタブレットで見ることができるよう「電子版」の提供を行う。 ・家庭で親子が語り合ったり、家族でお城に出かけたりする際にも役立つガイドブックにする。 (2) 特に工夫する点や、協働する意義 ・当会は、金沢城・兼六園等文化財に関する事項の学習と普及の活動を行う団体である。令和6年度に「兼六園こどもガイドブック」改訂版を発行、学校や図書館に配布するとともに、その「電子版」を提供して活用を推進。さらに、ガイドブックを活用した学校への出前講座を実施してきた。「金沢城こどもガイドブック」は、この姉妹版として作成する。これまでの「教育現場などとの交流・連携を進める活動」を通じた気づき（ニーズの把握や効果的な出前講座など）を反映する。 ・文化財保護課との連携を通して、金沢城の文化財保護に関するあり方と実践を正しく知り、こども達の理解に役立つ取り組みをすることができる。

③実施内容案 年間事業スケジュール案について、必要があれば使用してください↓ 事業スケジュールひな形	○ニーズ調査 入手情報の確認・把握：文化財の保護、こども達に感じて欲しいことの観点 ガイドブックの学校と家庭、現地での使い方を把握 ○金沢城こどもガイドブック作成 ・作成担当（金城班）結成 ・対象読者の再認識：小学校高学年（５、６年生程度）向け （高学年になると歴史や社会への関心が高まり、自ら考えることが顕著になる） ・本のデザイン：サイズ、ページ数、体裁（書体・文字）設定、・構成(目次) ・原稿作成（こどもにわかりやすい文章（言葉、ルビ）と写真・図・イラストなど） ・関係先との連携・調整 例：文化財保護課（作成対象・内容など）、 石川県金沢城調査研究所（復元整備）、石川県金沢城・兼六園管理事務所（保守管理） ・印刷と製本、電子版作成、配布 ○出前講座 ・講座のしくみづくり（講座カリキュラム設定、使用教材などの準備） ・関係先との連携・調整 例：教育委員会（学校指導課、学校職員課）、学校関係先、 「金沢観光ボランティアガイド まいどさん」 ・講座該当先への情報提供と実施：令和８年度に試行、令和９年度から本格的実施 ・講座実施担当（当会員）選任 ○広報・周知：ガイドブックの発行と活用（出前講座を含む）に関する広報・周知 （金沢市広報、学校関係先・図書館などへの連絡、当会ホームページへの情報掲載） ○成果発表：成果報告資料整備と発表 ○振り返り：中間：１０月、年度末：２月 ※年間スケジュール案：別資料をご確認ください。 他、特記事項 ・配布先（本と電子ファイル） 金沢市小学校５２校、中学校２４校など
事業効果	※金沢市における効果や、事業の対象者が具体的にどうなるか等、記載してください。
期待できる事業効果 （広く市民が共感できるか、他団体や行政・企業とのつながり、協働の効果がみえるか 等）	新たな教材「金沢城こどもガイドブック」の作成と活用（出前講座を含む）を文化財保護課と協働で取り組むことで、教育現場や家庭での地域の歴史・文化の認識度、関心度が高まる。そして、金沢市では、若い世代が金沢に愛着を持っていると感じ、また地域の歴史や文化に興味がある市民の割合が高まることが十分期待できる。さらに、こども達は金沢城公園に携わる施設や景観を守り支える人達の尊さを知ることになる。その結果、市民の意識が変わり、藩政時代より歴史に培われてきた金沢らしい伝統文化を愛し、継承する心豊かで活力ある未来金沢を創り上げる一助となると確信する。 ※出前講座について ・「金沢城こどもガイドブック」出前講座は、小学校の課外授業（ふるさと学習）に際し、事前に学ばすきっかけを作るために、当会の会員が学校に出向き実施するものである。教育現場との連携で実施する。小学校からの金沢城現地学習の機会を多くするためには、学校の先生方への当会からの出前講座の実施もよいのではと考えている。 ・出前講座は、当会から学校に出向く講義とともに、「金沢観光ボランティアガイド まいどさん」会員との連携により現地学習を行うものである。

その他 特記事項	
(今回応募した動機・熱意、本事業を通して何を得たいか等)	(1) 今回応募した動機 チャレンジ事業の取り組みに関し、文化財保護課と協働することで、金沢城・兼六園等文化財に関する学習と普及の活動を正しく行うことができ、当会の目的である地域・生活文化の振興に貢献できる。 また、金沢城二の丸御殿の復元整備が開始されたが、「金沢城こどもガイドブック」に関する教材が活用されればより楽しく金沢城を知り学ぶことができ、これからの郷土を愛し、担っていくこども達の育成に役立つ。 (2) 本事業で得たいこと 「金沢城こどもガイドブック」の作成と活用を行い、挑戦的に地域でのこども達の情操教育への貢献を実感したい。令和6年度から取り組んできた「兼六園こどもガイドブック」の改訂版発行と教育現場への配布・出前講座などによる人づくりへの貢献活動を、「金沢城」にまで広げ、金沢城・兼六園の一体的な文化財の保護とともに、心豊かで活力ある未来の金沢を協働の力で創りあげていきたい。

年間スケジュール案

事業内容・準備		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ニーズ調査	入手情報の確認・把握	事前準備	●	文化財の保護、こども達に感じて欲しいことの観点、ガイドブックの学校と家庭、現地での使い方を把握									
ガイドブック作成	作成担当（金城班）結成	事前準備	●										
	対象読者の再認識（小5,6程度）	事前準備	●	歴史や社会への関心が高まり、自ら考えることが顕著になる									
	本のデザイン：サイズ、ページ数、体裁設定		●										
	構成（目次）	事前準備	●										
	原稿作成（こども向け）		●	●	●	●	●	●					
			こどもにわかりやすい文章（言葉、ルビ）と写真・図・イラストなど										
	関係先との連携・調整	事前準備		●	文化財保護課、石川県金沢城調査研究所、石川県金沢城・兼六園管理事務所								
	印刷、製本								●	●	●		
	電子版作成									●	●		
配布										●			
出前講座	講座のしくみづくり	講座カリキュラム設定、使用教材などの準備				●	●						
	関係先との連携・調整	事前準備	●			●	●			アガイドまいどさん			
	講座該当先への情報提供と実施							●				※	
								試行（兼六園関連出前時に）			次年度本格的に実施		
広報・周知	講座実施担当（当会員）選任						●				●		
	ガイドブックの発行と活用(出前講座を含む)に関する広報・周知						●				●	●	
							金沢市広報、学校関係先・図書館など教育関連施設への連絡、当会ホームページへの情報掲載						
成果発表	成果報告資料整備と発表										●		
振り返り	中間、年度末						●				●		